

お子様ランチ

今年の夏休みは、どうでしたか。受験生という肩書きが邪魔をして、いつものような楽しい日々を送ることができなかったかもしれません。楽しみにしている家族旅行が、取りやめになった人もいるかもしれません。来年こそは、しっかり「夏」をエンジョイできるように、もうしばらく辛抱しましょう。私もこの夏は、補習やら何やらで、恒例となっている旅行には行きませんでした。皆さんと共に闘っているのです。頑張りましょう。

さて、皆さんはもう「ディズニーランド」や「ディズニーシー」を体験しましたか？数年前、私がかつて一度は行ったことがあるのですが、とても楽しい思い出になっています。来年こそは、もう一度トライしようと、密かに計画中です。この話は、私がある雑誌で読んだ話で、ディズニーランドの、めちゃくちゃ感動する話です。数字に関しては、少し古いデータですが、ご紹介します。

シーガイアをはじめ、全国のテーマパークやリゾート産業が赤字を続け、破綻（はたん）や休園に追い込まれ景気と連動して氷河期時代を続けている中、東京ディズニーランドだけは97.5%のリピート率（何度も訪れている人の割合）を誇り、確実に入場者数を増やしています。「ここに初めて来ました」と言う人は年間3%にも満たず、10回以上を超えるリピーターが6割もいます。そのリピーターの人々が、入場料を除く、お土産だけの売上を675億円（2003年度）も東京ディズニーランドで使って帰ります。これは、銀座のデパートと同等の売上だそうです。もちろん年末商戦もバーゲンもディズニーランドにはありません。この売上に入場料やディズニーシーの売上を加えるとスーパー優良企業です。「マニュアルを越えたところに感動がある」とディズニーランドの母体である株式会社オリエンタルランドの相談役、堀 貞一郎顧問がこんな話をしていたそうです。

ディズニーランドに、ある若い夫婦がやって来ました。ランド内のレストランで、彼らはお子様ランチを注文したのです。もちろん「お子様ランチは9歳以下」とメニューにも書いてあります。子どものいないカップルにはマニュアルではお断りする種類のもので、当然、「恐れ入りますが、このメニューにも書いておりますが、お子様ランチはお子様用ですし、大人には少し物足りないかと思われまますので…」というのがマニュアルです。

しかし、アルバイト（キャスト）の青年は、マニュアルから一步踏み出して尋ねました。

「失礼ですが、お子様ランチは誰が食べられるのですか？」

「死んだ子どものために注文したくて」奥さんが答える。

「亡くなられた子どもさんに」とキャストは絶句しました。

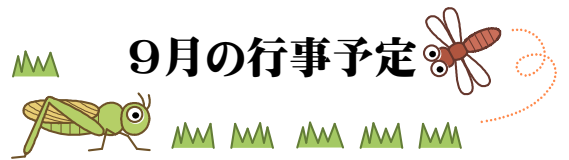
「私たち夫婦は子どもがなかなか生まれませんでした。求め続け求め続けて、やっと待望の娘が産まれましたが、体が弱く、一歳の誕生日を待たずに、神様のもとに召されたの

です。私たち夫婦も泣いて過ごしました。子どもの一周忌に、いつかは

子どもを連れて来ようと話していたディズニーランドに来たのです。そしたら

ゲートのところで渡されたマップに、ここにお子様ランチがあると書いてあったので思い出に…」そう言ってご夫婦は目を伏せました。キャストのアルバイトは「そうですか。では、どうぞ召し上がってください」と応じました。そして「ご家族の皆さま、どうぞこちらのほうに」と四人席の家族テーブルに夫婦を移動させ、それから子ども用のイスを一つ用意しました。そして「子どもさんはこちらに」と、まるで亡くなった子どもが生きているかのように、小さなイスに導いたのです。しばらくして運ばれてきたのは、三人分のお子様ランチでした。キャストは「ご家族で、ごゆっくりお楽しみください」と挨拶して、その場を立ち去りました。若い夫婦は失われた子どもとの日々をかみしめながらお子様ランチを食べました。





9月の行事予定

このような行為はマニュアル破りの規則違反です。しかし東京ディズニーランドでは、先輩も同僚も彼の行動はとがめません。それどころか彼の行為はディズニーランドでは賞賛されるのです。マニュアルは基本でしかありません。それを越えるところに感動が潜んでいるのです。この出来事に感動した若い夫婦は、帰宅後に手紙を書きました。

「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているように家族の団らんを味わいました。こんな娘との家族団らんの体験を東京ディズニーランドでさせていただくと夢にも思いませんでした。これからは、二人で涙をふいて生きてゆきます。また二周忌、三周忌に娘を連れてディズニーランドに必ず行きます。そして私たちは話し合いました。今度はこの子の妹か弟かを連れてきつと遊びに行きます」

どうです？いい話でしょ？こんな手紙がディズニーランドには連日届けられるそうです。ミッキーマウスの産みの親、ウォルトディズニーがディズニーランドに求めたもの、それはお客が映画の世界に入り込み、一緒に感動をつくりあげていくことでした。だから東京ディズニーランドでは、お客をゲスト(共演者)と呼び従業員をキャスト(出演者)と呼びます。キャストはいつも感動を探しています。舞台裏でキャストのリーダーは「次のドラマを作るのは誰？」とキャストたちに呼びかけるのだそうです。東京ディズニーランドでは、全くと言っていいほどゴミは落ちていません。キャストは落ちていたゴミを見つけるとローラースケートで「スーッ」と駆け寄り、「サッ」と拾って「ニコッ」と微笑み去っていきます。立ち止まって地図を見ているとキャストが必ず笑顔で寄ってきて、「何かお探しですか？」と声をかけ、丁寧な言葉づかいで道を説明し終わると、最後には「楽しんで、行ってらっしゃい！」と言ってくれます。写真でも撮ろうものなら掃除担当者の人も寄ってきて「私が撮りましょうか？」と尋ねてくれ「はい。チーズ！！」とシャッターを押してくれます。そして、最後には、また「とってもステキな写真が撮れましたよ。行ってらっしゃい。楽しんで！」とまた笑顔で対応してくれます。

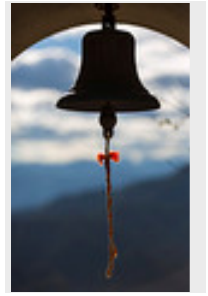
人を感動させるところには、人が集まります。そして、そこに人はお金を落とすのです。またキャストのメンバー自身も、人に喜んでもらえることで自分の存在価値を感じています。だから、彼らの行為は自発的なのです。それが生きていることへの確認になります。誰かに親切にすることで「ありがとう」の言葉や笑顔が返ってくる、それが生きていることへの実感につながるのです。

いよいよ2学期です。自らの夢を実現させる最終章が近づいてきます。しかし学習に集中すればするほど、つまずいたり進路に悩んだりする時期が訪れることでしょう。でも、一人ではありません。先生方やなかまとともに乗り越えていきましょう。それが皆さんの、今を「生きている事への確認・実感」につながるのではないのでしょうか。

日	曜	おもな行事	給食
1	日		
2	月	2学期始業式 午前中授業	×
3	火	5時間授業 第2回学習の診断 PTA運営委員会	○
4	水		○
5	木	生徒会専門委員会	○
6	金	トキメキタイム(英)ステージプロジェクト	○
7	土	文化センター開館日	
8	日		
9	月	人権プロジェクト	○
10	火	生徒会朝会 人権プロジェクト	○
11	水		○
12	木	短縮午前中授業 午後:ミュージカル「げんない」鑑賞	○
13	金	月曜日の時間割 人権プロジェクト	○
14	土	サタデースクール	
15	日		
16	月	敬老の日	
17	火	人権プロジェクト	○
18	水		○
19	木		○
20	金	トキメキタイム ステージプロジェクト	○
21	土	文化センター開館日	
22	日		
23	月	秋分の日	
24	火	人権プロジェクト	○
25	水	ボランティア清掃	○
26	木	短縮5時間授業(木:1・2・3・5・学 活)ステージプロジェクト	○
27	金	短縮6時間授業 校内文化祭(作品展示)	○
28	土	校内文化祭(ステージ発表)	×
29	日		
30	月	学校訪問 教育相談開始 2学期中間テスト発表	○



平和集会



「でいご」の花が咲き乱れる4月1日、
ついにアメリカ軍は沖縄に上陸を開始しました。1945年8月15日、
わが国の敗戦から数えて、わずか4か月前のできごとでした。ここに、太平洋戦争史上
類を見ない、多くの犠牲者を輩出した、唯一の地上戦が展開されます。

私たちは今年、修学旅行でその沖縄の地に立つことができました。土砂降りの雨の中で見たものは
「嘉手納基地」、戦場に散った、ひとひらの花「ひめゆりの塔」。平和祈念公園では「平和の礎」を見学し、
平和集会も開催しました。後ほど平和宣言、平和へのメッセージも、お聞きください。

「命どう宝」これは沖縄の言葉で「命こそ宝」という意味です。みなさんも私たちのメッセージから、
命の尊さを感じ取って頂けたら幸いです。(3年団発表「命どう宝」より)



平和宣言

きらめく亜熱帯の太陽の下、私たち鶴尾中学校3年団は、沖縄の地に立ち
ました。空の色を映し出したエメラルドグリーンの海。この二つの蒼い色が
入り交じった世界を見て、沖縄という地に、数えきれい程の歴史が刻まれて
いるという事実を、私たちは肌で、そして心で実感しました。

今から68年前の惨劇は、目を閉じ、耳を澄ましてみると、亡くなられた
多くの人々の悲痛な叫びとなって、どこからか聞こえてくるかのようです。
沖縄の人々が被害にあい、尊い命を失ったこと、子どもからお年寄りまで、
何の罪もない人々が犠牲となったこと、この戦争によって家族や恋人が引き
さかれたこと。私たちは惨酷なできごとを見つめなおすと共に、戦争の記憶
を過去のものだけにするのではなく、次の世代へと伝えていかなければなり
ません。そして、これからの将来を生きていく私たちは、どうしていきべき
なのかを考えることが、かけがえのない尊い命を失った方々にできる、せめ
ても「償い」なのではないでしょうか。

あれから68年の月日が経った今、今日の社会を振り返ったとき、日本は
果たして「平和な国」と、言えるのでしょうか。日本国憲法では、平和に生
きる権利が保障されているにもかかわらず、私たちの日常においては、差別
やいじめが、どこかで起きています。戦争は、この世における最大且つ最悪の人権侵害。ならば、まず私たち
の身の回りの人権を確実なものにすることから始めていきたいと思います。

世界中の人々が笑顔になり、悲しい涙を流すことのない、そんな世界になる事を強く願い、沖縄の人々の魂
の叫び「命どう宝」、かけがえのない命を大切にすることをここにお誓いし、宣言と致します。

最後に、沖縄において、被害を受けられたすべての人々の心の痛みを分かち合うとともに、はる
か沖縄の地に眠る、犠牲となられた多くの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます

2013年7月19日香川県高松市立鶴尾中学校生徒一同

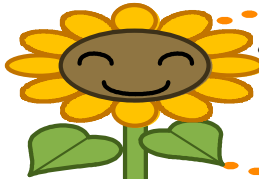


ミュージカル「げんない」



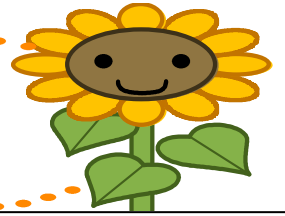
今回の舞台の題材は江戸中期に活躍した
学者「平賀源内」。「エレキテルを造った人」というと、授業で習ったのを思い出す人も多い
のかな。ちなみにこの人、香川県出身、という事で四国の偉人の一人でもあります。たしか
元々平賀源内って「発明家」というイメージがありますが、実際には、確かに色々な才能に
恵まれていたものの、世の中の評価は「変人」、尊大で傲慢、自分の才能を認めない世の中を
どこか引いた目でみていた皮肉屋だったという人物。で最後は獄死。なかなか舞台上で演じるには難しい人物ですが、
どう味付けをするのかも興味深いところでした。来月12日、アルファあなぶきホールにて、鑑賞会があります。





みんなで人権を考える会

鶴尾太鼓～縦横夢進(じゅうおうむじん)～



そのとき私は、絶望の淵に立っていた。本番まで残された日数はたった1週間。これまで2～3回しか練習しておらず、しかも、頼みにしていた指導者の先輩は、もう来られないという。「終わった」率直な感想だった。

しかし、それでも最後まであきらめない熱い者たちがいた。そこから彼らの闘いが始まった。「タテの線合わさんか～」罵声と怒号の飛び交う中、彼らは、まさに死にもものぐるいだった。数日間で暗譜(楽譜を覚えること)した。そして、いよいよ、その日がやってきた。

素晴らしいパフォーマンスだった。会場には感動の嵐が巻き起こった。



鳴り止まない拍手の中で、ぼんやりとステージを眺めている自分がいた。ふと脳裏をかすめるものがあつた。先日の新聞記事の見出しだった。
～「奇跡の学年」～ ちょっと大げさかな? …もう涙は乾いていた。



校内文化祭



3年生のステージ発表は、この「鶴尾太鼓」の演奏です。聞き逃されている方は、ぜひ、この文化祭で、ご堪能くださればと思います。その他、夏休みの課題であった「習字」や「絵画」等も展示されます。また生徒自らが作成する、昨年から今年にかけて行われた人権学習「新竹取物語」「夢がかなえられる社会をめざして(就職差別)」平和学習「命どう宝」のまとめも、あわせて展示されます。27日(金)・28日(土)です。お待ちしております。(バザーの方にもご協力ください。)

